

南の風

—第10号—

まだまだ寒い日が続いています。新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもたちの生活はより一層不自由なものになり、ストレスを抱えている児童・生徒も多いことと思います。教職員一同、できるだけのことをして、感染防止に努めながら、友だちや教員と楽しく充実した学校生活を送ってほしいと考えています。

病弱教育を考える

はじめは歴史から

日本の病弱教育は、明治22年に始まります。この時代は かけ が病弱教育の対象の病気でした。今は悪性新生物(白血病・脳腫瘍等)、筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患、喘息などの呼吸器系疾患、ペルテス病などの骨・関節系の疾患、糖尿病などの内分泌系疾患、アレルギー疾患、腎炎などの循環器系疾患、てんかん、心身症及び精神疾患、重症心身障害…と多岐にわたっています。

横浜南養護学校のある神奈川県立こども医療センターは、昭和45年に小児病院・肢体不自由施設・重症心身障害児のための児童福祉施設のある小児総合医療施設として開設されました。教育の場としてゆうかり養護学校分校が設置され、これが横浜南養護学校の始まりです。

病弱教育の意義

- (1) 積極性・自主性・社会性を養い健全な成長を促すこと
- (2) 心理的安定に寄与し健康回復への意欲を育てること
- (3) 病気に対する自己管理能力を育てること
- (4) 健康の回復やその後の生活に役立つこと

学校に関わっている子どもたちは治療成績や予後がよいと言われます。



横浜南養護学校

私たちは、コロナ禍の中でも工夫して授業を行い積極的に語り掛け、児童・生徒たちが上手に人と付き合えるように、思いやりがもてるように育てています。地元の学校に戻って日常生活が戻ってきたら忘れちゃうかもしれないけれど、いつか思い出した時にここがほっこり暖かさと満たされる学校を目指しています。

病気や障害を自分なりに受け止め、悩みながらも自分らしく学び成長していく児童・生徒たち、児童・生徒に寄り添って一緒に笑ったり心の中で泣いたりして成長していく先生たちを、校長としていつも誇りに思っています。

何かありましたらいつでもご相談ください。

校長 峰尾 智子

学校生活 重心部門

今年度も残りわずかとなりました。昨年度に引き続き、制限がある中での授業の実施となりましたが、子どもたちは学校生活の中で様々な表情を見せてくれます。日々実態把握を行いながら、子どもたちの感覚を刺激する様々な授業を実施してきましたが、11月からは全部屋共通で、制作の時間に『羊毛フェルトで身の回りのものをつくろう』という単元で授業を進めてきました。この単元については重心部門の教員の指導検討会のテーマとしても挙げ、教員による実践報告を受けながら、授業内での子どもたちの手の動きや道具の使い方など、日々の授業の様子を記録し、共有する時間を設けてきました。授業を進めるなかで、児童生徒にとって教材の提示の仕方が適切であるのか、指導者の関わりは適切であったのかなど、課題としてみえてくるものが多くありました。

教員が子どもたちにつけてほしい力や子どもたちが授業を通して得られることを整理しながら、今年度の残りわずかな授業も実りあるものにしていきたいと思っています。



3月 行事予定

8日(火) 卒業式練習(小学部)

10日(木) 卒業式練習(中学部)

16日(水) 卒業式予行練習

17日(木) 午前日課

18日(金) 午前日課

卒業式

24日(木) 午前日課

25日(金) 午前日課

修了式